

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.1
Q1 室内環境								3.2
1 音環境				1.0	0.15	3.7	1.00	2.1
1.1 騒音				1.0	0.47	3.5	0.50	
1 室内騒音レベル		住戸専有部は35~40dBを設計目標値とする		1.0	1.00	4.0	0.50	
2 設備騒音対策				-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音				1.0	0.47	4.0	0.50	
1 開口部遮音性能		住宅専有部は遮音等級T-2とする		1.0	0.91	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能				1.0	0.09	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		LL-45を設計目標値とする		-	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		LH-50を設計目標値とする		-	-	4.0	0.20	
1.3 吸音				1.0	0.06	-	-	
2 温熱環境				2.0	0.35	5.0	1.00	3.3
2.1 室温制御				2.3	0.50	5.0	1.00	
1 室温				3.0	0.57	-	-	
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能				1.0	0.33	5.0	1.00	
4 ゾーン別制御性				3.0	0.10	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				2.7	0.25	3.1	1.00	2.9
3.1 昼光利用				3.9	0.35	4.5	0.30	
1 昼光率		事務室、住宅は2.5%以上、診療所は1.5~2.0%		4.8	0.51	5.0	0.50	
2 方位別開口				-	-	5.0	0.29	
3 昼光利用設備				3.0	0.49	3.0	0.21	
3.2 グレア対策				1.6	0.26	3.0	0.30	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御				1.6	1.00	3.0	1.00	
3 映り込み対策				-	-	-	-	
3.3 照度				1.0	0.13	1.0	0.15	
3.4 照明制御				3.0	0.26	3.0	0.25	
4 空気環境				4.2	0.25	4.0	1.00	4.1
4.1 発生源対策				5.0	0.57	5.0	0.63	
1 化学汚染物質		ホルムアルデヒド、その他のVOCも放散量の少ない建材を採用		5.0	1.00	5.0	1.00	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
4.2 換気				3.3	0.37	2.3	0.38	
1 換気量				3.0	0.48	3.0	0.33	
2 自然換気性能				1.0	0.04	1.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		汚染源のない方向で排気口と異なる方位が3m以上離して設置		3.9	0.48	3.0	0.33	
4 給気計画				-	-	-	-	
4.3 運用管理				3.0	0.06	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	0.45	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	0.55	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.3
1 機能性				3.0	0.40	3.8	1.00	3.3
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	4.0	0.60	
1 広さ・収納性				3.0	0.05	-	-	
2 高度情報通信設備対応		各住戸に100Mbitのインターネットができる環境を整備する		2.0	0.05	4.0	1.00	
3 バリアフリー計画				3.0	0.91	-	-	
1.2 心理性・快適性				2.8	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観		事務所は天井高2.9mで窓設置、物販・飲食店は天井高3.0m確保		3.2	0.10	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				1.0	0.08	-	-	
3 内装計画				3.0	0.82	3.0	0.50	
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		内装・外装ともに維持管理に配慮した設計とする		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理機能の確保		洗い場、ゴミ置場、清掃員控室等を設置し共用部を維持管理		3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.1	0.31	-	-	3.1
2.1 耐震・免震				3.2	0.48	-	-	
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		制震装置の導入		4.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.3	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		日本住宅性能表示基準の劣化対策等級3の仕様を満たす		5.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管はSUS、おリエレン、汚水・雑排水管はVP、DVLPを使用		4.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性			2.6	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		1.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.1	0.29	4.4	1.00	3.6
3.1 空間のゆとり			4.6	0.10	3.8	0.50	
1	階高のゆとり	物販店等は階高3.9m以上、住宅は3.0m以上を確保	5.0	0.60	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比は建物全体で0.1～0.3、居住部分で0.5～0.7	4.0	0.40	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		積載荷重2900～3500N/m ² とする(住宅は2900N/m ²)	3.0	0.10	5.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.80	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.31	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		周辺環境との調和を図り、低層部の外壁に白系のタイルを採用	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物の熱負荷抑制		事務所等はPAL低減率1.7～12.9%、住宅は省エネルギー対策等級4	4.5	0.33	-	-	4.5
2 自然エネルギー利用			2.6	0.21	-	-	2.6
2.1	自然エネルギーの直接利用		2.3	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR29.9%とする	4.6	0.38	-	-	4.6
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		ERR=29.9%	4.7				
集合住宅の評価			4.6				
4 効率的運用			3.0	0.07	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマに加え節水型便器を用いる	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.89	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.11	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.63	-	-	2.6
2.1	材料使用量の削減	コンクリート強度60 Fc < 100、鉄筋強度F 490とする	4.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率が一般的な建物と同等	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐車場、駐輪場、荷捌きスペースを確保する	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			2.3	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		2.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	